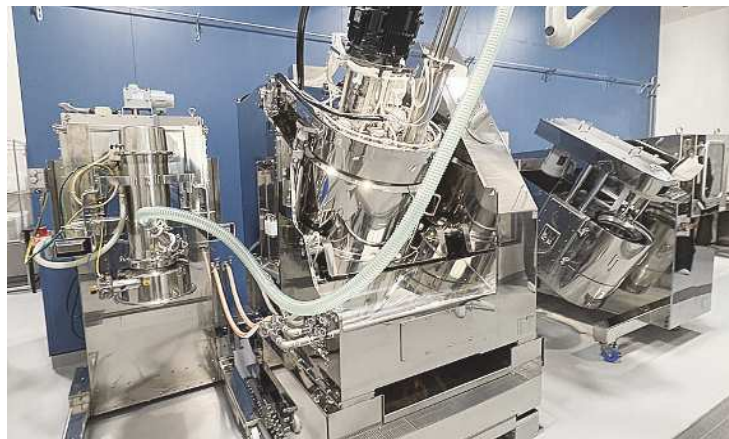


名古屋にテクニカルセンター



高度な粉体処理方法を提案

産業用ミキサーの日本アイリッヒ

産業用ミキサーの製造販売などを手掛ける日本アイリッヒ（本社名古屋市中区、内藤雅元社長）は、名古屋市中瑞穂区に新本社兼テクニカルセンター「アイリッヒ・イノベーション・センター・ジャパン（EICJ）」を完成、稼働した。粉体に関する顧客の課題解決のほか、国内外のパートナーとともに技術開発やテストを行う粉体処理技術のオープンイノベーション拠点と位置付ける。最先端の粉粒体機器や分析装置を設置し次世代電池や医薬品、食品分野など成長領域への提案力を高める。（田中弥生）

粉体処理の提案力強化

次世代電池開発ニーズにも対応

EICJは3階建てで、延べ床面積約1800平方メートル。1階は中核となるテクニカルセンターで、粉体処理技術の研究からテスト、分析まで行える四つのラボを備える。「シーエルラボ」は、リチウムイオン電池材料やセラミックスなどを対象とし、粉体の外部流出を防ぐ陰圧環境とした。今後、次世代電池として期待される全固体電池への対応も検討する。

「シーエルラボ」は、食品や化粧品分野向けに、外部からの異物が入りにくいクリーン環境を整えた。この

ほか、最新の分析機器をそろえ顧客の研究開発や品質向上を支援する「アナリシスラボ」や、テスト機を備えてレンタル利用できる「トリアールラボ」も設置した。2階は会議室やカジュアルに交流できるカフェスペース、3階は事務所でフリーアドレス制を採用した。3日に同センターで開所式を行い、内藤社長は「EICJは単なる建物でなく、人と人が交流し、パートナーとともに新しい価値を創出する挑戦の場としたい」とあいさつ。今後、地域の大学や研究機関との研究開発も活発化していく方針だ。



テープカットする内藤社長（右端）ら

同社はドイツに本拠を置く老舗産業用ミキサー、粉砕メーカー「マシーネンファブリーク・グスタフ・アイリッヒ」の日本法人。ドイツ本社から開所式に出席したステファン・アイリッヒ社長は「日本はグループにとって極めて重要な拠点。EICJは共創、実証未来への挑戦のために設けられた」と期待を述べた。

